

辺野古新基地「ノー」

市民や学生国会包囲



辺野古の新基地建設に反対する市民が詰め掛けた国会包囲行動＝12日午後2時すぎ、国会前

【東京】米軍普天間飛行場返還に伴う名護市辺野古の新基地建設断念を求めるため、首都圏の県出身者や市民団体、学生らが東京・国会議事堂周辺を取り囲む抗議行動「止めよう! 辺野古埋め立て9・12国会包囲」が12日午後2時に始まった。参加者は「基地を造るな。辺野古に造るな」「埋め立てやめろ。ボーリング調査やめろ」と声を上げ、県民と連動し辺野古新基地建設阻止に向けた運動を進めていく決意を新たに示した。

辺野古新基地建設に反対する国会包囲行動は1月25日の第1回(主催者発表で約7千人)、5月24日の第2回(同約1万5千人)に続き3回目。辺野古をめぐる県と政府の集中協議が決裂し、翁長雄志知事が埋め立て承認取り消しにかじを切り、政府が埋め立てに向けた作業を再開する中、初の包囲行動となった。

正午前から参加者が集まり始めた。沖縄からへり基地反対協の安次富浩共同代表、島ぐるみ会議事務局長の玉城義和県議が駆け付け、新基地建設ノーを訴えた。ルポライターの鎌田慧さん、シールズ琉球のメンバーも登壇する。

国会を取り囲んだ参加者は全員で「沖縄を返せ」を歌い、政府に新基地建設断念を求めた。